



中村家住宅と津久瀬集落

黒保根町下田沢の津久瀬地区は、渡良瀬川に沿った国道122号線の下田沢交差点から沼田方面の急な坂を登った一帯の小集落。黒保根町の中心部、水沼駅からは南へ約500メートル。江戸川と呼ばれる急流が集落脇を流れ、高低差の激しい斜面に25戸が存在する。

江戸時代からの古い集落で、明治元年（1868）に大火に見舞われ、ほとんどの家（18戸）が焼失したという記録がある。建物の多くは大火以降のもので、大型養蚕農家が目立つのは、明治7年に開業した水沼製糸場との関わりで養蚕が盛んに行われたものと思われる。

津久瀬集落の最も山側の高い場所に位置する中村家住宅も大火以降に建てられた大型養蚕農家。昭和4年に開局した水沼郵便局の初代局長を務めた中村基氏の生家である。斜面に組まれた

石垣、作業場や納屋を左手に門をくぐると巨大な主屋がある。もともとは茅葺きの建物である。玄関を開けると広い土間があり、居室は5部屋、局長の書斎もそのままの形で残っている。二階は蚕室として使われ、道具も当時のままである。

中村家の裏手は深い森となり、樹齢数百年と思われる大杉を神木として祀る。また、横穴があり井戸として掘ったもので奥行きは23メートルに及ぶ。さらに石段を登った斜面には赤城神社の分社があり、地域住民は春と秋にお祭りを行っている。自然を畏敬し、自然の地形を巧みに生かしたなかでの津久瀬の暮らしと生業がそこにある。



所在地	桐生市黒保根町下田沢津久瀬
所有者	中村 兼男
地区会長	小林 基男